ニコライ・アストルップ《ルバーブ》1911-21年
DNB貯蓄銀行財団／コーデ・ベルゲン美術館
Photo: Dag Fosse / Kode

ニコライ・アストルップ　2026 11/21(土)–2027 1/31(日)
創造する庭

20世紀初頭のノルウェーで最も傑出した画家の一人として、近年、世界的にも評価が高まっているニコライ・アストルップ（Nikolai Astrup／1880-1928）。険しい山々と湖に囲まれた西ノルウェーの故郷・ヨルステルを拠点に、天候や季節ごとに変化する自然と人々の暮らしを描き続けました。油彩画に加え、独自の境地を拓いた木版画などの代表作を一堂に集め、その画業の全貌に迫ります。

山鹿清華《星座・月・ロケット》1958年
京都市美術館

生誕140年記念　染織家

山鹿清華　2027 2/20(土)–4/11(日)
宙翔ぶイマジネーション

山鹿清華（やまが・せいか／1885-1981）は、京都で西陣織の図案と日本画を学び、神坂雪佳に師事してさらに創作の幅を広げました。図案、糸の選択、織りに至る工程をひとりで行う「手織錦」を考案し、伝統的な図柄から、時代を映す奇抜なモチーフまで自由に表現しました。明治、大正、昭和にわたり活躍した染織家・山鹿清華の仕事を振り返る40年ぶりの回顧展です。

秦テルヲ《渕に佇めば》1917年　星野画廊

秦テルヲ　聖と俗　2027 4/29(木祝)–6/20(日)
（仮称）

日本各地を転々としながら描き続けた漂泊の画家、秦テルヲ（はだ・てるお／1887-1945）。労働者や娼婦など底辺に生きる人々の姿を生々しく描き、デカダンの画家と呼ばれました。一方で、清らかな仏画や母子像を繰り返し描いています。東京で初公開となる《吉原長巻》は、震災で焼失したと思われていた幻の作品ですが、吉原の光と影を鮮やかに描き出した画家の最高傑作です。この機会をぜひお見逃しなく。

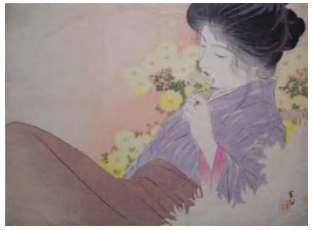
ジュン・フジタ《発展　シカゴにかかる橋》1931年頃　個人蔵
Courtesy of The Graham and Pamela Lee Jun Fujita Collection

シカゴ　写真と越境　2027 7/3(土)–8/29(日)
（仮称）

20世紀のシカゴで活躍した、日本とアメリカ双方にルーツをもつ5人の写真家を紹介します。ジュン・フジタ、ハリー・K・シゲタ、井高雄一、石元泰博、タダオ・タカノ。報道写真、商業写真、ニュー・バウハウスの実験など、多彩な表現を通して、日本とアメリカにまたがる経験のなかで育まれた彼らの創造をたどります。5人の足跡から、トランスナショナルな写真史の一断章を浮かび上がらせます。

梶田半古　2027 9/18(土)–11/7(日)
（仮称）

明治から大正にかけて活躍した日本画家、梶田半古（かじた・はんこ／1870-1917）。文学・歴史や有職故実などの深い教養に裏打ちされ、卓越した描写力と抜群のデザイン感覚で描かれたその作品は、同時代の日本画の中でもひときわ品格を感じさせます。また、挿絵や口絵、絵葉書などの「卓上芸術」にも並々ならぬ精力を注ぎ、多くの優れた作品を残しました。出版文化という面からもたいへん興味深い作家です。



梶田半古《菊のかをり》『文藝倶楽部』口絵
明治38年第11巻13号　個人蔵

エレン・テスレフ　2027 11/27(土)–2028 2/13(日)
（仮称）

エレン・テスレフ（Ellen Thesleff／1869-1954）は、19世紀フィンランド絵画の黄金時代に活躍した画家です。美術の世界で女性が認められることの少なかった時代に、国境を越えて活動し、母国に最新の潮流をもたらした先駆者の一人となりました。このたびの日本初個展では、テスレフの創作の源となった「旅」に着目し、優れた色彩画家にして木版画の革新者であり、抽象表現にも挑んだ画家の歩みを辿ります。

エレン・テスレフ《少女たち（草原の少女たち）》
1906年　ヘルシンキ市立美術館、レオナルド&カタリナ・バックスバッカ・コレクション
Photo: Maija Toivainen

藤井達吉　自然への憧憬　2028 3/4(土)–5/21(日)
（仮称）

工芸、絵画、図案など、ジャンルを越えて創作を続けた藤井達吉。伝統的な技法に学びながら独自の表現を生み出し、やがて生活空間そのものをデザインする試みへと活動を広げていきました。本展では、新たに見つかった工芸作品や初公開の絵画を交え、芸術を暮らしの中へ広げようとした彼の普及活動にも目を向けながら、自然への憧れに貫かれた藤井芸術の全貌をひもときます。

藤井達吉《大島風物図屏風》（左隻）1916年
碧南開口工会議所（碧南市藤井達吉現代美術館寄託）

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-9-1　TEL.03-3212-2485
https://www.ejrcf.or.jp/gallery/　JR東京駅 丸の内北口 改札前

開館時間｜10:00－18:00［金曜日－20:00］　＊入館は閉館の30分前まで
休 館 日｜月曜日［祝日の場合は翌平日休館。会期最終週・GW・お盆・SW期間中の月曜日は開館］、展示替期間、年末年始
※開催内容・会期は変更することがあります。最新情報は当館ウェブサイトでご確認ください

東京ステーションギャラリー
TOKYO STATION GALLERY